

(3) 都市内における交通対策について

想定課題

国会等が移転してきた場合、交通渋滞や交通事故の増加につながり、生活環境が悪化するのではないか。

対応方向

新たな都市づくりに当たっては、基本的に「脱車社会」に象徴されるような「地球環境と人にやさしい」、「ベストミックス（適正な組み合わせと役割分担）」の交通体系と交通システム運営を目指していくことが重要であると考えます。

国会等が移転してきた場合、交通量の増加に伴って、特に生活道路と周辺都市へのアクセス道路とが重複する場所等において、交通渋滞が発生したり、交通事故が増加したりすることが懸念されます。

このような問題の発生を未然に防止するためには、バス、鉄道、あるいは「新しい交通システム」などで構成する合理的な公共交通ネットワークを構築し、公共交通を優先した交通管理体制を確立した上で、適切な「交通需要マネジメント（TDM）」を行っていく必要があると考えます。

具体的には、市街地の周辺部に整備された駐車場でLRTなどの公共交通に乗り換えて中心部へと移動する「パークアンドライド」や新幹線からLRTなどに乗り換えて中心部へと移動する「ライドアンドライド」のシステムを導入したり、公共交通優先の都市交通管制システムを構築することにより、公共交通ネットワークが有効に機能するよう適切な信号制御を行うとともに、「新交通管理システム（UTMS）」を導入することにより、道路利用者に対して正確な交通情報の提供と的確な経路誘導を行うことなどが考えられます。

また、那須地域の平坦性に着目した場合、自転車を最大限に活用した交通体系を構築していくことも可能であろうと考えます。

例えば、公共交通のターミナルに駐輪場を整備するだけでなく、各ターミナル間におけるレンタサイクルの乗り捨てシステムを併せて導入することにより、自転車利用を促進するといった施策などが考えられます。

このようなソフト面での施策を総合的に推進する一方で、道路の沿道緑化、自転車歩行者専用道路の設置など、生活環境を守るためのハード面の整備を一体的に進めていくことにより、安全で魅力ある交通環境と生活環境をつくっていくことができるものと考えます。

公共交通ネットワークの整備イメージ



[資料]とちぎ21世紀プラン(栃木県総合計画)

TDM (Transportation Demand Management : 交通需要マネジメント)

自動車による道路の混雑を緩和する対策として、生まれてきた考え方で、現在では交通規制だけではなく、自動車以外の交通手段に誘導することも含めた総合的交通対策をいう。同時に、交通混雑の緩和に伴う大気汚染軽減効果も期待できる。

時差出勤の導入

都心への車乗り入れに賦課金

パークアンドライドの導入と施設設置

相乗りの条件整備

使いやすい便利な公共交通機関の導入

交通対策と連動した土地利用開発許可制度の導入等

UTMS (Universal Traffic Management Systems : 新交通管理システム)

光学式車両感知器(光ビーコン)を通じた個々の車両との双方向通信により、ドライバーに対してリアルタイムの交通情報を提供するとともに、安全運転支援、緊急時対策、旅客・物流の効率化を含めた交通の流れを積極的に管理することによって、「安全・快適にして環境にやさしい交通社会」の実現を目指すもの。